

3 プライバシー影響評価実践支援技術

安心・安全なパーソナルデータ利用を支える プライバシー影響評価（PIA）実践支援技術

AIや新技術の導入、IoTデバイスの普及などにより、パーソナルデータを利用するサービスが増加する一方で、個人情報保護法違反やプライバシー問題の発生リスクが高まっている。この問題解決に向けて、NTT社会情報研究所が研究する「プライバシー影響評価（PIA）実践支援技術-らくらくPIA-」と、同技術の活用事例を紹介する。

パーソナルデータを利用するサービスの増加とプライバシー影響評価（PIA）の必要性

個人の氏名や住所、趣味、行動履歴などの、パーソナルデータを利用するサービスが増えている。例えば、Webサイトやアプリでの操作履歴や登録情報に基づくお薦め情報配信、商業施設などでのカメラ映像を利用した混雑度可視化、スマートシティにおける人・モノに関する官民データ連携などが該当する。

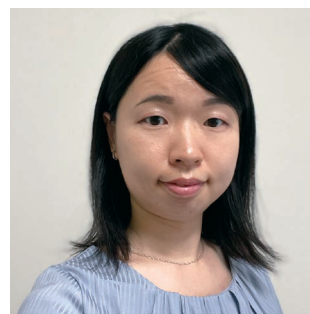
パーソナルデータは、個人情報保護法による保護対象であると同時に、個人のプライバシーに関わるデータでもある。AIや新技術の導入、IoTデバイスの普及、企業間でのデータ連携が進む現在、さまざまな場面で個人の多種多様なパーソナルデータが収集されている。これらの収集データの利用により、イノベーションや新たなサービスが生まれ、世の中が便利になる一方、これまでは想像もしなかった形でプライバシーの問題が発生するリスクも高まっている。プライバシーの問題がニュースやネットで取り上げられて炎上し、サービス中止に追い込まれ

ることもある。

そこで、国・政府機関では、2020年頃から企業に対し、プライバシー影響評価（Privacy Impact Assessment. 以下、PIA）の実施を推奨している。PIAとは、「個人情報などの収集を伴う事業の開始や変更の際に、プライバシーなどの個人の権利利益の侵害リスクを低減・回避するために、事前に影響を評価するリスク管理手法」である^{*1}。

しかし、PIAを適切に実践するのは容易ではない。理由として、個人情報保護・プライバシー、リスク評価の実施方法に関する専門知識を要することが挙げられる。このため、サービスに最も精通している開発担当者がPIAの必要性を認識できず、適切な実施時期（＝企画・設計段階）を逸する状況が発生しやすい。

そこで我々は、パーソナルデータを取り扱う持株会社の研究開発などに対して実施してきたPIA活動や、事業会社への技術支援にて培ったPIAの知見をもとに、専門知識のない人でも簡単に実践ができるように支援する技術、「プライバシー影響評価（PIA）実践支援技術-らくらくPIA-」（以下、「らくらくPIA」）



NTT社会情報研究所
社会情報理論研究プロジェクト
社会システムデザイングループ
池田 美穂氏

の研究に取り組み、2023年2月に完成させた。

「らくらくPIA」の特徴・導入効果・利用シーン

「らくらくPIA」は、PIAの実践に必要な基礎知識を解説する技術資料と、最も躓きやすい個人情報保護法への法的適合性の評価を支援するソフトウェアから構成される。

技術資料では、PIAの位置づけ、個人情報保護法の基礎解説、PIAの具体的な実施手順を解説している。各コンテンツは一目でわかりやすいよう1ページ1トピックとし、図を用いて要点を簡潔にまとめている。

ソフトウェアは、個人情報保護法



図1 「らくらくPIA」のソフトウェアの質問画面 (抜粋)

に基づき判定フローチャートを構成しており、質問に対し提示される選択肢を選んでいくことで該当する個人情報保護法の要件を導出する。各質問画面では(図1)、質問内容に関する基礎解説を表示したうえで選択肢を選ばせることで、適切な判断を誘導するUI/UXにしている。

「らくらくPIA」の有効性は、NTTのPIA活動で検証済みである。例えば、案件担当者による情報の種類の判断誤りが約2割減少した。

また、利用シーンとしては、個人情報保護・PIAに関する社内教材としての利用、サービス・システム開発担当者によるセルフアセスメントの実施などを想定している。なお、ツールの仕様上の制約(例:法の例外規定に関する判定は未実装)やユーザーによる選択誤りの可能性があるため、正式なアセスメントは法務部門や社内の個人情報保護・PIA

相談窓口の担当組織が実施することを想定している。

「らくらくPIA」の活用事例：スマートビル竣工案件

2010年代後半から、オフィスビルや商業施設では、施設に設置したIoTデバイスや個人のスマートフォンを用いてパーソナルデータを取集・分析し、効率的な施設運用や施設利用者への快適なサービス提供に利用する事例が増えている。

例えば、NTTアーバンソリューションズ株式会社(以下、NTTアーバンソリューションズ)が手掛けた「アーバンネット名古屋ネクスタビル」(2022年2月竣工)では、顔認証センサーとの連動によるエレベーターの行先階の自動制御、AIを活用したリアルタイム画像解析による異常検知、施設共用部の混雑状況の確認やクーポンの受領等が可能

なアプリを提供している^{※2}。

アーバンネット名古屋ネクスタビルの竣工に際し、我々はNTTアーバンソリューションズに対し、PIA実践の技術支援を行った。技術支援を通じてNTTアーバンソリューションズは、個人情報保護・PIAの基礎知識、法令遵守とプライバシーリスク対応の知見を獲得し、以降のスマートビル竣工に活かしている。

NTTアーバンソリューションズでは今後、「らくらくPIA」を活用しての社内教育やPIAを効率化する予定である。

「らくらくPIA」の今後の展望

「らくらくPIA」の今後の研究開発として、プライバシーリスクの検討方法を専門知識のない人にもわかりやすく体系化することを計画している。現在の「らくらくPIA」は、個人情報保護法への適合性を軸とした技術資料とソフトウェアから成る。しかし、AIや新技術の導入などにより、法的適合性の範囲を超えるプライバシーリスクを抱える案件が年々増えていると我々は感じている。この現状に対応し、効果的なPIAを実践できるよう、プライバシーの専門家でないサービス・システム開発担当者がプライバシーリスクを理解し、リスク低減を検討できる方法を研究する予定である。

※1

https://www.ppc.go.jp/files/pdf/pia_promotion.pdf

※2

<https://www.ntt-us.com/news/2022/02/news-220201-01.html>